

思索と言語

言葉を科学する：人間の再発見

奥 聡

Day 06: 「言語音」の再発見 (2)

(B)

(C) 次のうち先週の授業で、論じたことに当てはまらないものを 2つ

=====

1. 赤ん坊の対比音識別能力: アイマスの実験から

- (1) VOT (voice onset time): [pa] vs [ba]
閉じた唇が開いてから、声帯が振動するまでの時間
- (2) 0.03 秒以前なら [ba], それ以降なら [pa] と知覚される
- (3) どうして赤ん坊が区別をしているのかが調べられる?
刺激と吸てつ反応 (sucking rate) (and/or 心拍数)

Eiman, P. et al. 1971. "Speech Perception in Infants." *Science* 171, pp.303-306.

2. 無意識の音韻規則: 同化現象(assimilation)を例に(1)

- (4) 英語の同化現象(1): 過去を表す形態素-(e)d の発音
 - a. played, judged, begged, buzzed, etc. [d] (有聲歯茎閉鎖音)
 - b. watched, cooked, kissed, etc. [t] (無聲歯茎閉鎖音)
- (5) 有聲(性)同化 (voicing assimilation)
この場合は、左の要素が右の要素に影響を与えている: 「巡回同化」
- (6) 英語の同化現象(2): 英語の否定を表す接頭辞
 - a. **ir**regular < regular
 - b. **im**moral < moral
 - c. **il**legal < legal
 - d. **in**direct < direct
 - e. **int**olerant < tolerant
 - f. **im**possible < possible
 - g. **im**balanced < balanced

- (7) (6a-c)は否定辞の最後の音素が、語幹の最初の音素と完全に同化している
 この場合は、右の要素が左の要素に影響を与えている：「逆行同化」

- (8) (6d-f)の否定辞は、なぜ[n]で終わったり[m]で終わったりしている？

=>語幹の最初の音素と「調音点」が同化している

(assimilation in place of articulation)

- (9)

	両唇	歯茎
閉鎖音	p b	t d
鼻音	m	n

- (10) 日本語の同化現象(1)：日本語の「ん」

- a. かんぽ（簡保）
- b. かんど（感度）
- c. かんご（看護）

- (11) Quick Quiz

- a. (10a)(10b)(10c)の「ん」は、鼻から息が抜ける鼻音ですが、口のどこを閉じるかが微妙に異なっています。口のどこで空気の流れをさえぎっている？
- b. 無秩序に「ん」の発音を微妙に変えているのではありません。
背後にある（無意識の）規則は？

- (12) 調音点の同化（assimilation in place of articulation）

- (13) 「ん」は日本語では、1つの音素 / n /

（意識の上では1つの音。発音の微妙な違いで意味を変えているわけではない）

Cf. king, kin, Kim

- (14) しかし、「ん」の変種 [n] [m] [ŋ]は、現れることができる環境に規則がある

- a. 両唇音の「ん」 [m]は、両唇音の直前： _____[両唇音]
- b. 歯茎音の「ん」 [n]は、歯茎音の直前： _____[歯茎音]
- c. 軟口蓋音の「ん」 [ŋ]は、軟口蓋音の直前： _____[軟口蓋音]

- (15) 互いに異なる環境にしか現れない。現れることができる場所を完全に役割分担
 相補分布（complementary distribution）

- (16) 1つの音素（phoneme）の変種が相補分布の関係にあるときそれらの変種をその音素の「異音」（allophone）という

Cf. 工藤新一 vs 江戸川コナン

- (17) 無意識です。そして厳しい規則です(これに逆らって話すのはかなり難しい)
(そして意識的にならってできるようになったわけではない)
- (18) **In-class work 6-1**

3. 無意識の音韻規則：同化現象(assimilation)と母音弱化

- (19) 日本語の 5 つの母音のうち /i/ と /u/ は「高舌母音」
- (20) 標準日本語では、無声子音 + 高舌母音 + $\left\{ \begin{array}{c} \text{無声子音} \\ \# \end{array} \right\}$
 \Downarrow
 無声化
- (21) 菊池くん (**k i k u t i k u n**) => (**k i k u t i k u n**)
- (22) 額田さん (**n u k a d a s a n**)
- (23) 前後の無声子音の影響で母音（高舌母音）が無声化する：一種の同化現象
- (24) これも無意識の規則（無声化せずに発音するのはかなり不自然）
- (25) 日本語が特別なわけではない
 南太平洋アウストロネシア語族の Mokilese 語でも、日本語と全く同じ条件で
 高舌母音の無声化が起こっている
- p i s a n** ‘full of leaves’ **t u p u k t a** ‘bought’
p u k o ‘basket’ **k i s a** ‘we two’
- (26) 英語の母音弱化：アクセントのない母音は「あいまい母音」[ə] (schwa) になる
- (27) a. camera [k æ m ə r a] => [k æ m r a]
 b. Canada [k æ n ə d ə] => [k ə n e i d i ə] => [k n e i d i ə]
- (28) 弱化された母音は脱落することがある (casual style)
- (29) 日本語の無声化された高舌高母音も脱落することがある
- (30) 洗濯 [s e n t a k u] cf. 洗濯日 [s e n t a k u b i]
 洗濯機 [s e n t a k u k i] => さらに脱落[s e n t a k k i]
 母音無声化
- (31) 比較 [h i k a k u] cf. 比較文学
 比較級 [h i k a k u k y u] => さらに脱落 [h i k a k k y u]
 母音無声化
- (32) 母音弱化のパターンは英語と日本語で異なります。
- (33) 弱化した母音が消失する（完全には発音されなくなる）という点は日本語と英語に
 共通

Appendix: アクセント位置

(34) 日本語（標準語）：n モーラの語には「n + 1」個のアクセント型

「はし」（2 モーラ） => アクセント型 3 パターン

- a. はし（が）折れている (箸)「起伏式」
- b. はし（が）折れている (橋)「起伏式」
- c. はし（が）折れている (端)「平板式」

(35) 3 モーラ語 =>アクセント型 4 パターン

- a. いのち（が） 「起伏式」
- b. あたま（が） 「起伏式」
- c. おとこ（が） 「起伏式」
- d. ねずみ（が） 「平板式」

4. まとめ

- (36) 音韻規則のほんの一部を見た（英語と日本語標準語）
- (37) 人はみな、無意識のうちに自分の母語のさまざまな音韻規則に従って話している
(規則に逆らうのはかなり難しい)
- (38) 音韻規則を共有している人同士は、「同じ言葉」を話していると強く感じる
- (39) 音韻規則が少し違ってくると、「違う方言」と感じる
- (40) イントネーションもさまざまな規則に支配されている
- (41) 鹿児島弁のイントネーション（=>宿題 06）
- (42) 音声や単語の獲得だけが、言語獲得ではない。

単語を組み立てて句や文を作る仕組み（統語論）も重要な言語能力

Homework Assignment 06

*WebTube にログインして、「言葉を科学する」のクラスに入り、「06-HW06 (言葉科学)」

を期限までにやりなさい。(水曜日午後 9 時)

テキストを丁寧に読むと、正解できます。しっかり取り組んで！

<https://webtube.c11.hokudai.ac.jp/>

(43)

	両唇	歯茎	軟口蓋
閉鎖音	p	t	k
	b	d	g
鼻音	m	n	ŋ